

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【生きる】 2【かかわる】 3【そなえる】	④【夢や希望の大切さ】夢や希望を持つことは、生きる価値を見いだすことであり、つらく厳しい状況を乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑩【県内外や海外の人々とのつながり】苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し共に協力することの大切さを実感する。 ⑫【自分と地域社会】自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きとしたまちづくりにかかわる。 ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 ⑰【自然災害の歴史】過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫などについて調べ、防災、減災について理解するとともに、次の世代へ語り継いでいく	総合 (1日間)

【題材】山田町被災地学習

【対象】小川中学校第3学年（男子8名、女子8名 参加）+校長、3学年所属教師3名

【実践への経緯】

H25より学年毎に被災地を訪問して、被災や被害の様子について学習し、現地で復旧・復興に携わる人と共に視察しながら学び、被災者との交流を実施している。3年生は、H25は宮古市田老地区を訪問したが、H26は昨年度の3年生に続き山田町を訪問することとなった。

【日程】

<9月9日（火）>

7:00 小川中学校集合・出発 ※中型バスで移動

9:30～山田町着・被災地見学

役場→御蔵山→魚市場見学（※被災地ガイド 椎谷さん）

11:40～山田町震災復興企業体（CMJV）見学

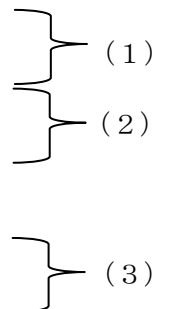
12:50～昼食・弁当 休憩（保険センター付近の公園又は旧病院近くの公園）

13:20～バス移動

13:30～仮設住宅の方々との交流会

15:00 交流会終了・出発

17:30～小川中学校着・解散



【主な実践の詳細】※日程右の（ ）に対応

(1) 被災地見学

新生山田町商店街共同組合の椎谷さんの案内により、山田町の市街地を歩きながら、震災当時の様子、被災の状況の説明を受ける。最大25Mの津波が押し寄せ、821名の尊い命が失われたこと、津波が収まった後、発生した火災により町民の半数が家を無くしてしまったこと、



水が出ないため消火活動ができず悔しかったこと等を知る。

現在は、山田線の復活を見込んで、陸中山田駅周辺が中心部になるよう町を再生していく予定であること、水産業に関しては震災前と同様の100%の状態に戻っていることを聞いて安心した。海を臨む御蔵山で、一人一人が「鎮魂と希望の鐘」を鳴らし、亡くなられた方々へ祈りを捧げた。



「復興があまり進んでいないと感じた。事業所には県外ナンバーの車が20～30台止まっていて、県外からのたくさんの支援に感謝したいと思った。」（女子生徒K）

（2）山田町震災復興企業体（CMJV）見学

復興企業体の事務所では、槻館課長さんから、CADの立体画面により、町の復興計画と進捗状況について説明を受ける。駅周辺の拠点地区では26年度中に盛土が完成し、27年度には店舗建築が始まる予定。宅地となる盛土工事は28年度春までかかり、完了した場所から宅地建設。商業地域となる国道45号線付近は、予算の関係で2M程度しか嵩上げできず、「いざと言う時には高台に逃げる」ということになる。



「住民一人一人の意見をまとめるのが難しいこと、復興には、高い予算がかかること等を知りました。」（女子生徒O）

（3）仮設住宅住民との交流会



関谷林業担い手センターの仮設住宅を訪問し、23名の住民と交流を行う。3曲の合唱「大切なもの」「輝け君の命」「コスモス」、ソーラン節、エッサッサ、恋するフォーチュンクッキー（踊り）を披露した後、お茶を飲みながら交流。生徒が踊る際の法被を気に入った婦人方と一緒にソーラン節を踊り盛り上がった。自治会長の川端さんから



ら、「毎年お出でいただいて大変嬉しい。第二次世界大戦の後、見事に立ち直ったように、再び立ち直るだろう。やり遂げるのはあなたたちだ。」との強いメッセージをいただいた。

「合唱やソーラン節を披露して喜んで下さったので、とても嬉しかった。お年寄りの方々とたくさん話ができて楽しい時間を過ごせ良かった。」（女子生徒H）

【まとめ】 震災を語り継いでいくこと、被災地の現状を知ることの大切さを再認識していた。津波の恐ろしさを知るとともに、復興がまだ進んでいないこと、その中でも人々が力強く歩み出していることに心を打たれていた。これからできることとして、「伝える、支援に携わる、被災した方々と関わり続ける、将来に夢を持って生きる、困難に負けないで生きる」とまとめた。